

「火山学研究室の紹介」 <http://petrolvolc.sci.ibaraki.ac.jp/index.html>

長谷川 健

こんにちは！我々は火山学を研究している、通称「火山研」です。2020年5月現在、大学院生6名（うち博士後期課程2名）と学部4年生5名という所帯で活動しています。火山学とは、研究対象を火山に定め、さまざまな手法でそれを理解しようとする学問です。我々の手法には、地質学、岩石鉱物学、地球化学、地球物理学（古地磁気学）あるいは古文書収集や遺跡調査などの人文科学的アプローチも含まれます。これらのデータを総合して、例えば、1）ある火山地域の地形・地質の成り立ちを明らかにしたり、2）将来起こりうる火山災害の減災対策を考えたり、そして3）噴火現象そのものの理解を深めたりしています。



1)地質図の出版

活火山、特に巨大噴火を起こした火山の多い、北海道東部を調査し、高精度の地質図を作成しています。成果の一部は「5万分の1地質図幅」として、すでに産業技術総合研究所から出版*。マリモで有名な阿寒湖は火山の堰止（せきとめ）湖です（左）。

2)災害対策

那須岳から常陸大宮市まで流れ下った大規模土石流(右)の復元や、カメルーン国ニオス湖で1,700人以上の命を奪った火山の調査を行い、これらの成果が学術雑誌に掲載されました**。前者は4年前の修士論文、後者は現在博士後期課程にいる留学生と行った研究をまとめたものです。



3)火山学の魅力は、なんとと言っても噴火を見ること。



目撃した事実を積み重ねることで、火山学は大きく前進します。現在はコロナ・ウィルス感染対策により、火山に赴くことはできませんが、昨年末は噴火中の桜島周辺を調査しました（左）。また我々は、食材（チョコなど）を使った噴火実験によって火山の理解や普及啓蒙・地域交流を図っています（右）。これからも「火山」を合言葉に、活発に研究していきます！よろしくお祈りします！！

目撃した事実を積み重ねることで、火山学は大きく前進します。現在はコロナ・ウィルス感染対策により、火山に赴くことはできませんが、昨年末は噴火中の桜島周辺を調査しました（左）。また我々は、食材（チョコなど）を



*https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2018/pr20180810_3/pr20180810_3.html

**<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0377027319300125>